

平成 22 年 6 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19402020

研究課題名（和文） イスラーム金融の発展と課題

研究課題名（英文） Development of Islamic Finance and its Major Issues

研究代表者

武藤 幸治（MUTO KOJI）

立命館アジア太平洋大学・国際経営学部・教授

研究者番号：10341611

研究成果の概要（和文）：イスラーム銀行が存在する東南アジア 4 カ国を対象とした、消費者（個人及び中小企業）のイスラーム銀行利用度と利用動機を現地における層化無作為アンケート調査とその分析を行った。

結果として個人利用者については、(1)イスラーム銀行預金選択の要因は、宗教的な動機による例が圧倒的に多かった。イスラーム銀行が設立されて初めて銀行サービスを利用する人数が特に融資面で増えている。(2)非イスラーム教徒については配当など経済的動機が殆どでありイスラーム銀行は従来型銀行との競争力を有していると結論付けられる。(3)企業アンケートでは中小企業金融で果たすイスラーム金融の積極的役割を期待しているとの回答が多かった。

研究成果の概要（英文）：

The research used stratification unintentional questionnaire survey in the selected four Southeast Asian countries where Islamic Banking is operating about the degree of use and motivation for using Islamic Banking for both individual and small and medium sized enterprises. From the analysis it is found that 1. Religious motive has been the factor of consumer preference for choosing Islamic Banking for the Muslims. 2. whereas economic motives including the allotment are often found significant factors for the non-Muslims to choose Islamic Banking. Thus, Islamic Banking has grown strong competitive advantages over the conventional banking. 3. The survey towards enterprises showed that they are evaluating the positive role in SME development.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2008年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2009年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
年度			
総計	8,500,000	2,550,000	11,050,000

研究分野：開発経済学

科研費の分科・細目：理論経済学

キーワード：イスラーム金融、消費者アンケート、統計分析、シャリア選好、世界金融危機

1. 研究開始当初の背景

| 東南アジア諸国におけるイスラーム金融が

急拡大し、国際金融市場において関心が高まる。日本国においても地域研究者のみならず金融庁、金融機関等の耳目を集めるに至る。イスラーム金融拡大を支えた主たる要因は何か。これまでに研究者及びジャーナリズム等はオイルダラーの膨張、米国によるテロ対策とマネーロンダリングの影響など外的要因を取り上げてきた。いわゆる世間はそれを当然のように受け入れてきた。果たしてそうだろうか。本研究は外的要因論への疑問を出発点とする。

2. 研究の目的

対象国市民の認識と行動様式を、アンケート調査を通じて把握し、金融選好の経済的、非経済的要因を解明し、将来の発展可能性を展望する。同時並行的に進めている中東諸国を対象にした類似調査研究の成果と合わせてイスラーム金融に対する利用者の行動に関する国際間比較を行う。

3. 研究の方法

(1) . 市場の特性を把握するために、本研究で対象にしたインドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン4カ国の制度と市場の歴史的発展と現状につき文献調査と現地ヒアリング調査。

(2) . 上記4カ国市民を対象にしたイスラーム銀行およびイスラーム保険選択の動機と評価に関し現地アンケート調査を実施（質問票は研究者グループが設計）集計結果を統計分析（要素分析及び回帰分析）し、イスラーム銀行選択の動機、利用者評価に関する国際間比較を行った。（第1表参照）

（第1表）回答者の属性（人）

Country	宗教	性別		教育水準		
		男	女	Level 1	Level 2	Level 3
Indonesia (N=196)	Muslim	103	76	13	37	137
	Non muslim	11	6	-	3	6
Malaysia (N=243)	Muslim	92	98	7	37	145
	Non muslim	22	31	1	11	35
Singapore (N=164)	Muslim	52	49	6	20	65
	Non muslim	31	32	1	19	43
Philippines (N=101)	Muslim	52	39	3	13	75
	Non muslim	6	4	-	-	10

標本数と教育レベルの合計値が合わないのは未回答者を除いたため

*Level 1: 小中学卒業

*Level 2: 高校卒業

*Level 3: 短大卒業以上

(3) . アンケート調査対象は人口分布に応じて大都市、中都市、村落からそれぞれ1、2カ所ランダムに選択、対象は20歳以上の成人男女に限定する層化無作為調査を採用した。一定の標本数を得ることと回答者のコメントを得るべく面談方法を採用した。

(4) . 個人向けにはイスラーム保険への加入と選択要因に関する調査も実施した。

(5) . 中小企業に対しては対象国独自の定義がない場合は従業員100人未満の企業を対象にe-メールと電話による質問を行った。

(6) . 分析結果を対象国の金融監督官庁、金融関係者に提示して、それぞれの立場からの解釈をヒアリングし、統計結果を補強した。

(7) . データベースを作成し、他地域の調査との比較分析、及び今後の同様な調査の利用に供する。

4. 研究成果

研究成果は随時研究会、講演会、雑誌等で発表。日本におけるイスラーム金融への関心が高まっている時期でもあったため、金融庁、銀行、法律事務所からの講演依頼や問い合わせが続いている。

中東諸国を対象にして実施している類似研究の成果と合わせ出版を計画している。

調査研究を通じて明らかになった諸点は、

- (1) イスラーム金融の発展は当該国政府の政策に大きく依存している。預金・資産の量的な拡大のみならず、国際的なハブ構想を抱くマレーシアでは、金融取引形態の多様化、証券市場の開発とそのための基準作りを政府主導で進めている。シャリア合法性の判断についても柔軟である。インドネシアはより国内市場重視で中小企業振興及びマイクロクレジット的役割に重点を置く。（第2表参照）

（第2表）イスラーム銀行浸透度

Country	宗教	イスラーム銀行 預金	通常型 銀行 預金	両方	預金 なし
Indonesia	Muslim	46	137	27	12
	Non muslim	-	12	-	-
Malaysia	Muslim	37	61	75	14
	Non muslim	3	35	10	3
Singapore	Muslim	6	81	14	-
	Non muslim	1	58	2	-
Philippines	Muslim	1	81	3	5
	Non muslim	-	10	-	-

- (2) このようにアジアの中でも政策制度、シャリア解釈の相違が指摘できるが、中東諸国と比較するときその差異は一段と大きく、イスラーム金融が国境を越えて発展するために超えなければならない課題である。
- (3) これらのことはアンケートにも表れている。宗教的ファクターを選好理由に挙げる回答が多く、特にイスラーム銀行融資を利用するものは殆どが宗教的理由を挙げている。一方で、利益重視の預金者が少なからず存在することも事実で、時には相反する利害関係をいかにして乗り越えていくか、課題が浮き彫りになった。
- (4) 研究期間中、世界金融危機に遭遇した。対象国のイスラーム銀行は(通常型銀行とともに)大きな損失を被らなかった。多額の損失を出した中東産油国のイスラーム銀行との差が鮮明に出ている。今後の研究課題である。
- (5) 英国はじめ非イスラーム国にもこの金融システムを取り入れる動きが見られ、日本もそのひとつであるが、日本が導入するには、制度面での受容性を精査することはもとより、イスラーム金融がなぜ拡大してきたのか、今後の発展にはどのような課題克服が必要か。本研究の成果を踏まえて積極的に提言していく。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

A. Mani, 武藤幸治: The Development of Islamic Finance and Banking in Singapore, 立命館経済学, 57巻 第2号, pp.155-169, 2008, 査読あり

武藤幸治: 世界金融危機とイスラーム金融、季刊・国際貿易と投資 No.74, 2008年冬号, pp104-113, 査読あり

〔学会発表〕(計4件)

武藤幸治: マレーシアにおけるイスラーム金融アンケート調査結果と中東との比較、和歌山大学経済学部研究会、2009年11月13日

武藤幸治: なぜイスラーム金融は成長す

るか、京都大学 シンポジウム・グローバル イスラーム、2009年7月11日

Nariman Dahlan, インドネシアにおけるアンケート調査結果について、和歌山大学経済学部研究会、2009年11月13日

Nariman Dahlan, Differences and Similarities in Consumers Attitudes towards Islamic Banking in South East Asia, Ritsumeikan Asia Pacific University, International Symposium: Islamic Finance in South East Asia, 2010年3月19日

〔その他〕

〔講演〕武藤幸治: イスラーム世界と経済～グローバル化だけではない変化を追って、西村あさひ法律事務所主催 イスラームビジネス法研究会、2009年3月3日

〔講演〕武藤幸治: 消費者はイスラーム銀行に何を求めているか、西村あさひ法律事務所主催 イスラームビジネス法研究会、2010年2月22日

〔報告書〕武藤幸治: イスラーム金融後発国の現状と課題、産油国マネーとイスラーム金融研究会報告書、国際貿易投資研究所、2008年3月

〔報告書〕武藤幸治: 世界金融危機下のイスラーム金融、産油国マネーとイスラーム金融研究会報告書、国際貿易投資研究所、2009年3月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武藤 幸治 (MUTO KOJI)
立命館アジア太平洋大学・国際経営学部・教授
研究者番号: 10341611

(2) 研究分担者

ダハラン ナリマン (DAHLAN NARIMAN)
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・上級講師
研究者番号: 10369150

マニ エー (MANI A.)
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授
研究者番号: 40331102

近藤 まり (KONDO MARI)
立命館アジア太平洋大学・国際経営学部・
教授
研究者番号：60412805

小野沢 純 (ONOZAWA JUN)
拓殖大学・国際学部・教授
研究者番号：10169344

ポーター エドガー (PORTER EDGAR)
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋
学部・教授
研究者番号：70435171

(3)連携研究者
()

研究者番号：